

## 実践事例

(環境) 下山小学校 3・4年

# ササユリを守ろう

4月～2月(25時間)

## 1 ねらい

本校では、平成12年度にササユリの種をまいたことから、「ササユリ活動」が始まっている。そして今、3・4年生が中心となって「ササユリを守ろう」の活動をしている。子どもたちは、2年生のときに、ササユリが少しずつ減ってきていることを前の学年から聞いているので、ササユリをこれ以上減らさないようにしたいと思っている。だから、学習課題は「ササユリを守ろう」ということになり、どの子どもどうしたらササユリが守れるかということを考え、守るための行動を起こすようになっていく。

## 2 実践の概要

### (1) ササユリ調査

6月中旬になると学区内でササユリが咲いてくる。今年度は、6月6日に全校児童で学区内に咲いたササユリの本数を調査した。全校児童を4つの班に分け、それぞれの地区の本数や生育の様子を記録に残してきた。

活動の途中、「今年も元気に咲いたね」とか「やっぱりササユリってきれいだね」、「ササユリのおいはいにおい」などと口にしなが、本数を数えていった。

### (2) ササユリ調査のまとめと発表

調べたことを他の学年や保護者に伝えるために、地図に咲いていた場所を記入していった。また、4つの地域のササユリの本数を表にまとめていった。そのとき、過去の本数も表に付け加えていった。

子どもたちからは、「図にかくと、下山全体で咲いているのが分かるね」、「5年前より本数が少なくなったけど、2年前より多くなったね」、「減っているけど、少し増えたのがうれしい」などの感想が聞かれた。7月14日の授業参観の時に、保護者に向けて、調査結果を発表した。子どもたちは、緊張した表情も見せたが、調べたことに自信をもっていたので、大きな声で結果を発表できた。

### (3) ササユリの世話とササユリの特徴調べ

調査の結果、ササユリを守りたいという意識が高まってきた。校内にあるササユリの世話にも、身が入ってきて、水かけ当番になった児童は、忘れることなく、水をかけていった。草取りについても、粘り強

ササユリ調査



ササユリ調査のまとめ



ササユリ調査の発表



く行うようになった。

また、ササユリのことをより詳しく調べていくことができた。種をまいてから、7、8年かかって花が咲くことや半日陰のほうがよく育つこと、肥料はあまりやらないほうがよいということを高学年からも聞き取り、知識として身に着けていくことができた。

#### (4) ササユリの植え替え、種まき

12月6日に校内のササユリの球根の植え替えを全校で行った。前日までに球根を掘り返しておき、当日は、3・4年の児童が、植え替えの仕方を説明して、活動を行った。プランターの中の土に球根を置き、用土をかけていった。今回は、子どもたちの発案で、一人一鉢で育てることとなったので、一人一人植木鉢にも球根を植えていった。

また、来年入学する園児を招いてササユリの種まきを行った。3・4年児童が、園児にゆっくりまき方を説明していったので、トロ箱いっぱい種が広がり、園児たちも楽しそうだった。この芽が出るのは、16か月後の2年生の時である。

子どもたちは、「元気に芽を出してほしい」「いい花を咲かせてほしい」という願いをもつことができた。

#### (5) 「ササユリを守る」活動

ササユリの咲く本数が少しずつ少なくなってきた。また、校内のササユリが昨年度、猪に掘り返されることがあった。これらのことから、校内では、猪が入ることのできないところに、苗を植え替えることもするようになった(守る活動—校内)。そして、そこに「看板を置くようにしたい」と子どもたちが言ってきた。理由は、「夏になって、草刈のときに大人の人が機械で刈ってしまう」からということだった。さらに、学区の中にも、先輩たちの思いを受け継いで、看板を立てていくことになった。子どもたちは、ただ「先輩たちが守ってきたササユリをぼくたちも守りたい」、「ずっと、この下山でササユリが咲いてほしい」という思いを強くしていくことができた。

ササユリの植え替え



ササユリの種まき



守る活動—学区



守る活動—校内



### 3 実践を振り返って

3年生になると、社会科で学区の学習が始まる。少しずつ学区の環境や特色を理解できるようになってくる。そういうときに、「ササユリ」のことをテーマに学習を進めることは、学区を深く理解し、学区に愛着をもつことにつながると考える。実際、子どもたちは、無理なく保護活動に取り組むことができたので、内容としても適切であると考えられる。